

はじめての万葉集

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」を
分かりやすくご紹介します

vol.147

いにしへの
事は知らぬを
われ見ても
久しくなりぬ
あま
かぐやま
天の香久山

作者未詳（巻七・一〇九六番歌）

訳

古い昔のことは知りようもないほど
だが、わたしが見てからでさえ、こ
んなに久しくなった。聖なる香具山よ。

「いにしへ」からそびえる香具山

耳成山・畝傍山とともに大和三山に数えられる香具山を詠んだ歌です。香具山は伊予国風土記逸文（現在の愛媛県の地誌ですが、この風土記は現存せず、別の本に引用される形で断片的に伝わっています）などに天から天降った山であることが記されているほか、『万葉集』に大和三山の妻争いの伝説がうたわれているように（巻一・一三〇一四）、古来より神話や伝承を持ち大和の人にとって特別な山でした。

第一句の「いにしへ」は「往に十し十辺」で、現在まで続く連続的な過去をいう表現です。一方、「むかし」は既に過ぎ去った、断絶したものとして過去を捉える表現です。ですから、自分たちの歴史を語る場合には「いにしへ」が使われ、物語では「むかし」が使われました。現代でも昔話は「むかしむかしあるところに…」と始まります。「むかし」は自分たちとは断絶したいつかを述べる表現であったのです。本歌の「いにしへ」は、詠み手が香具山の神話や伝承を自分と連続したものとして捉えていることを表します。上二句で「そんなにいにしへのことは知らないが」と述べるのは、自らが直接体験したわけではないことを言いつつ、かえって香具山についてのさまざまな神話や伝承があったことを暗示させています。

第三・四句の「われ見ても久しくなりぬ」は幼い頃からずっと香具山を眺めてきたことをいうのでしょう。山を見て改めて悠久の時に思いを馳せているのです。本歌はそんな聖なる「天の香具山」が「いにしへ」から変わらずにそびえ立つことを讃めた歌なのです。

（本文 万葉文化館 榎戸 涉吾）

万葉文化館イベント情報

開館25周年記念 万葉古代学リレー講座

「歴史に学ぶ」

― 藤原京と万葉集 ― 無料・申込不要

8月8日（土）

14時～15時30分（13時30分開場）

【講師】上野誠（國學院大學特別専任教授・元万葉古代学研究所副所長）

【定員】300人（先着）

万葉集をよむ 無料・申込不要

8月19日（水）14時～15時30分

【雑歌（5）】

（巻9・1726～1737番歌）

【講師】中本和（当館主任研究員）

【定員】150人（先着）

※アーカイブ配信

（翌日から1週間視聴可）

にぎわいフェスタ万葉夏

開催中 8月29日（土）

● 夏休み子ども万葉教室 無料・申込不要

8月22日（土）

① 10時30分 ② 13時30分 各回約70分

【講師】榎戸 涉吾（当館研究員）

【定員】各回小・中学生15人

（先着・保護者同伴可）

● さあ出かけよう！

「飛鳥・藤原の宮都」

無料・申込不要

8月27日（木）

① 10時30分 ② 13時30分

③ 15時 各回約40分

【講師】北井 利幸（檀原考古学

研究所指導研究員）

※令和8年8月1日より、当館駐車

場は有料になりました。

※詳しくは当館HPをご覧ください。



奈良県立 万葉文化館

☎ 0744-54-1850

🌐 www.pref.nara.lg.jp/manyo